

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	2190200028
法人名	特定非営利活動法人 だいにんの花
事業所名	NPOグループホームだいにんの花
訪問調査日	平成 20 年 12 月 11 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 21 日
評価機関名	旅人とたいようの会

**項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家 族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 1月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2190200028
法人名	特定非営利活動法人 だいにんの花
事業所名	NPOグループホーム だいにんの花
所在地	岐阜県関市西神野605番地1 (電話) 0575 - 20 - 0013

評価機関名	NPO法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110		
訪問調査日	平成20年12月11日	評価確定日	平成21年1月21日

## 【情報提供票より】20年12月11日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 12 月 4 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10人 常勤 8 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 9

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 150000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり	1100 円		

### (4) 利用者の概要(12月11日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	5名		
要介護3	3名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86歳	80歳	最高	93歳	

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	今峰クリニック 中濃厚生病院 後藤歯科医院
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

リビングや居室の大きな開口部から静かな山なみや田畑が望め、地域の人々や職員のさりげない見守りの中で利用者一人ひとりの思いが尊重され、心身共に開放感のあるホームである。職員考案の行事や外出も多く、季節を感じさせるしつらえのホーム内には行事参加者の笑顔の写真が飾られ、暖かい陽射しの中での利用者の笑顔とゆったりした雰囲気が印象的である。理事長を始め地域に根ざした職員が多く、平成18年の設立時にも地域住民より様々な家具・食器などの提供を受け、利用者が買い物や散歩、地域行事に積極的に出かけ、ホームの行事には大勢の地域住民の参加を得るなど地域に溶け込んだホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果については、改善計画シートを作成し、順次取り組んでいる。苦情相談にあたる行政機関については重要事項説明書に既に明記されており、重度化に対しても看護師を常勤させる等徐々に態勢作りに取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価は全員で取り組むことに意義があることを理解し、自己評価は職員全員で取り組み管理者がまとめている。求めるべきサービスの質を改めて確認し、意義を理解するプロセスで認識の浅かった部分の学びがあり改善の取り組みに活かしている。前回の評価結果については、改善計画シートを作成し、順次取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は利用者、家族、市の職員、民生委員等の参加を得て2ヶ月に1回開催している。行事予定や報告、意見交換、要望に対する結果報告などを行い、議事録を配布している。会議で出た意見についてはサービス向上に反映させるよう努めている。評価で課題となった項目では会議メンバーにモニター役を依頼し改善につなげている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	運営推進会議に家族の参加を得て、意見を聞いている。家族には面会時間に制限を設けず頻繁に訪してもらい、暮らしぶりや表情、健康状態等を伝え要望を尋ねている。重要事項説明書に行政機関の苦情相談窓口を載せ家族にも説明しており、苦情・要望用紙を渡して意見をもらう工夫をしている。要望、希望には出来るだけ添えるよう努力している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、理事長や管理者が会合に出席して十分な交流がある。積極的に情報を得ては地域の祭りにも利用者と共に参加している。地元の中学生在が先生と共によく訪問し、学生の持参した野菜と一緒にピザを作った。学校の行事にも積極的に参加している。ホームの行事には役所・地域からテント等の提供があり、大勢の地域住民も参加して大切な交流の場となっている。利用者の外出時にも地域住民のさりげない見守りがある。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所名だいにんの花(だいにんの花の色は、一つひとつが違いそれぞれに個性がある)の由来のもと、利用者一人ひとりの、その人らしさを大切に家庭的な雰囲気の中で暮らしを支えるという独自の理念をつくりあげている。基本理念は明確であるが、その中に地域密着型サービスとしての役割が謳われていない。		開設当初から地域と密接な関わりをもっているホームの役割をさらに発展させていくためにも、地域密着型サービスとして、その果たすべき役割を盛り込んだ理念を作り上げていただきたい。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングなどで理念を確認し、できるだけ自己決定できる場面を作ることでその人らしさが発揮できるよう管理者も職員も日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、理事長や管理者が会合に出席して十分な交流がある。積極的に情報を得ては地域の祭りにも利用者と共に参加している。地元の中学生在が先生と共に訪問し、学生の持参した野菜と一緒にピザを作った。学校の行事にも積極的に参加している。ホームの行事には役所・地域からテナ等の提供があり、大勢の地域住民も参加して大切な交流の場となっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に取り組む意義を理解し、職員全員で取り組んだ。求めるべきサービスの質を改めて確認し意義を理解するプロセスで、認識の浅かった部分の学びがあり改善の取り組みに活かしている。前回の評価結果については、改善計画シートを作成し、順次取り組んでいる。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、市の職員、民生委員等の参加を得て2ヶ月に1回開催している。行事予定や報告、意見交換、要望に対する結果報告などを行い、議事録を配布している。会議で出た意見についてはサービス向上に反映させるよう努めている。評価で課題となった項目では会議メンバーにモニター役を依頼し改善につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の職員とは、制度上の問題を相談したり市の施設利用を依頼したり積極的に関わっている。ホームの行事の折には TENT 等の借り入れをしている。介護相談員による利用者との面談を年数回実施し、報告をサービス向上に役立てている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	頻繁にある家族の来訪時に介護記録等を見せ、廊下の壁に行事の写真を大きく掲示して暮らしぶりや表情、健康状態等を伝えている。ホーム便りを定期的に発行したいと考えている。毎月の請求書送付時に金銭管理に併せて健康状態・行事予定・運営推進会議の報告等をしている。職員の異動については報告がされていない。		利用者・家族と職員の信頼関係を考慮し、職員の異動についても家族へ報告する態勢作りを期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	夏まつりや、もちつき大会など家族同伴の行事を計画し意見の出やすい機会を作っている。重要事項説明書に苦情受付機関・相談窓口を示し家族にも説明している。契約時に苦情要望書用紙を複数枚渡し匿名で利用してもらおうよう説明しているが、今までに苦情要望書の提出はない。		家族からの苦情・要望は事業所にとって大切なものであることを繰り返し伝え、家族が意見を言いやすい関係や機会作りに積極的に取り組むことを期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員には、ホームにとって必要な人材であることを伝え異動や離職が最小限になるよう努力している。離職の場合も、馴染みの職員がいなくなる不安を与えないよう事前の説明を早い時期から徐々に行い、異動後の言葉かけを頻繁にして不安感が発生しない工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内に講師を招いて介護研修を複数回実施し、育成や技術向上を図っている。外部研修の情報を職員に伝えて受講を勧め、認知症の実践者研修を受講予定の職員がいる。研修受講後は資料を回覧しミーティングで話すなど情報を共有している。新人には職員が付き添い指導している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会の支部会議に管理者・介護支援専門員が出席し、情報交換や仕事の悩みの相談などを行っている。個別の事業者との交流もあり、現場職員の相互訪問なども考えたことがあるが、いまだ実現には至っていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>契約前に利用者本人に見学の機会を設けている。併設の小規模多機能型居宅介護から住み替えた利用者については相互訪問する期間がありスムーズにサービス開始ができています。将来的に共用型デイサービスやショートステイなどの導入意向があり、これらを利用するためのサービス利用を考えています。急な利用の場合も利用者の安心を得られるような対応を工夫しています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者から生活の基本・近所のことなど教えてもらう場面が多い。長年の生活の積み重ねから自然に発せられる利用者の声かけが職員の心に響くことがあり、利用者の笑顔から職員は元気をもらっている。食事やおやつの時・仕事をしながら・眠れない夜の時間を利用して等、いろいろな機会を利用して利用者と共に過ごす時間を大切にしている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>自分の希望を伝えられるような声かけを工夫し、利用者が一人である時に寄り添って世間話をしながら思いを把握している。意思疎通が困難な利用者には、家族からの情報や生活パターンを基に検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者から話を聞いたり家族・職員と話し合いを重ね介護支援専門員が作成している。より良い介護計画の為に、アセスメントや介護記録のさらなる充実を考え、職員間での勉強会を計画中である。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎に介護計画の見直しを行なっている。急な変化が生じたときには、その時々状況に応じた介護計画に変更している。毎月のミーティング時には介護計画に目を通し、問題点がないか・現状と介護計画とにズレがないか職員全員でモニタリングをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族からの要望により、かかりつけ医への受診時に付添いの支援をしたり、勤務時間帯によっては職員のボランティアで散歩の付添い支援をしている。併設の小規模多機能型居宅介護施設の利用者や職員との交流も頻繁にいただいている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来のかかりつけ医への受診やホームの提携医の訪問診療等、利用者・家族の希望に沿う支援がされている。受診時には入居者の状況を家族に伝え、受診結果を必ず得て情報共有に努めている。歯科衛生士や歯科医師の訪問も定期的に行なわれている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居前の契約時に、重度化した場合の対応方針について説明している。管理者は、将来的に何処まで入居可能かとの家族の不安を十分承知しており、その時々で繰り返し話し合いをして安心を得ている。関係者の協力を得ながら、ある程度の医療行為を必要とする利用者も受け入れていきたいと考えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りを傷つけるような話し方をしないなど利用者への言葉かけには特に気をつけており、職員間での徹底を図っている。食べこぼしなどもさりげなく処理している。個人情報を外部に出す場合は本人・家族の了解を得ており、名前の判る書類はシュレッダーにかけて廃棄している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々利用者の気持ちを尊重し、一人ひとりのペースに合わせた支援をするよう心がけている。眠れない利用者や夜遅くまで一緒にテレビを見、朝寝や外出の希望にも時間をずらし、職員の都合をつけてできるだけ対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家菜園から野菜を運んだり、調理を手伝ったりして利用者が食事の支度に関わるようにしている。献立は職員が作るが、食べたいものをリクエストしたり食材の買出しに行ってもらっている。利用者と職員が一緒にテーブルにつき、時間をかけて楽しく話をしながら同じ食事を摂っている。職員が握りずしの腕をふるって、利用者に喜ばれている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午前から夕方まで可能であり、希望すれば毎日でも入浴ができる。さらに入浴可能な時間帯を延長することを考えている。大体の入浴順は決めてあるが利用者の希望に合わせて柔軟に対応している。拒否のある利用者には足浴に変更したり時間をおいて別の職員が声かけするなど工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	習字の得意な利用者には誕生会の張り紙を書いてもらい、歌や詩吟の得意な利用者、手先仕事や掃除・調理の得意な利用者など、それぞれの力を発揮する場面を作っている。焼き芋パーティ・イチゴ狩り・運動会など皆で楽しむ毎月のレクリエーションの時は、日常では見られないような力や笑顔が表出され、職員の励みともなっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は、事業所の中だけの生活ではストレスがあることを承知しており、日常的に散歩や買い物に外出できるよう支援している。近隣の複数の店舗の協力を得ながら歩行困難な利用者も買い物にいける方法を工夫し、近く実行に移す予定である。イチゴ狩り、外食など遠くへの外出も定期的に行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜勤者が一人になる夜間のみ玄関の鍵をかけている。玄関を開けたら音が出るようにし、全ての職員の認識と見守りを徹底することで対応している。居室には鍵はない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回利用者や地域住民と共に避難訓練を行っている。地元消防団の協力を得て、消火器や火災報知機の点検、避難経路の確認を定期的に行なっている。近所の住民にも折に触れ協力を依頼しており、農業センターに1年分の米の備蓄がある。地震や河川の氾濫を想定した避難訓練を行う構想もっているが、夜間等職員が少ない時の対策については未だ取り組んでいない。		職員、利用者の安全・安心のためにも避難マニュアルを作成し、様々な時間帯(特に夜間を想定して)での避難訓練を繰り返し実施していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事・水分の摂取量を記録する他、定期的な体重測定等を参考に、適切な食事量や栄養バランスに配慮している。利用者それぞれに合わせた食事形態で提供されており、カロリー制限の必要な利用者にはこんにゃく入りの米を利用するなど目立たずに低カロリー食になるよう工夫している。インターネットを利用して大まかな栄養バランスや栄養量も把握している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感を取り入れた飾り付けがされ、廊下にはレクリエーション時の笑顔の利用者の写真が飾られている。リビングには、テレビ・新聞・雑誌などが自由に見聞きできる状態で置かれ利用者が思い思いの場所でくつろいだ時間を過ごせるような空間作りがされている。柔らかい自然光が射し込み、食事前には食べ物の良いにおいが漂うなど、利用者の五感を刺激するような取り組みを行なっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、使い慣れた家具類(ベッド・タンス・三面鏡・テレビ等)を持ち込み、家族の写真・塗り絵のカレンダー・一輪挿し等を飾り、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		